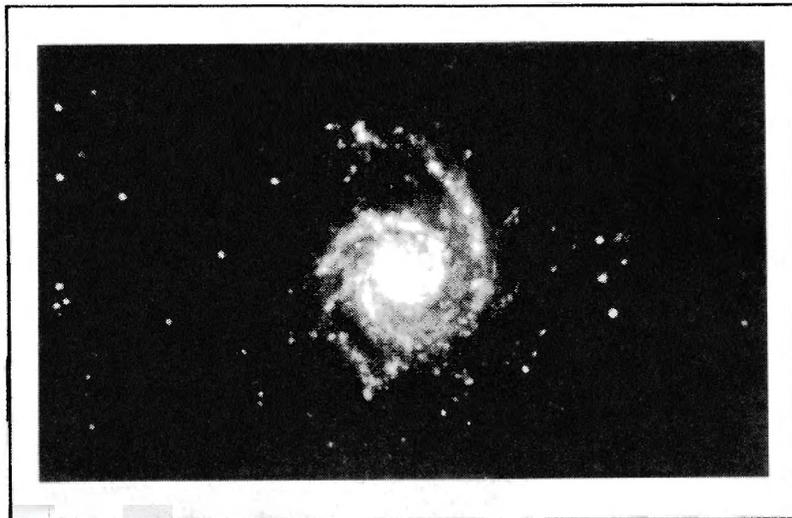


太陽



5



目次

◎	巻頭言	1
◎	肉体と精神の研究	2
◎	私は祝福想念の放射体 その1	4
◎	あるテレパシクな体験	6
◎	人体コーナー	7
◎	編集後記	8

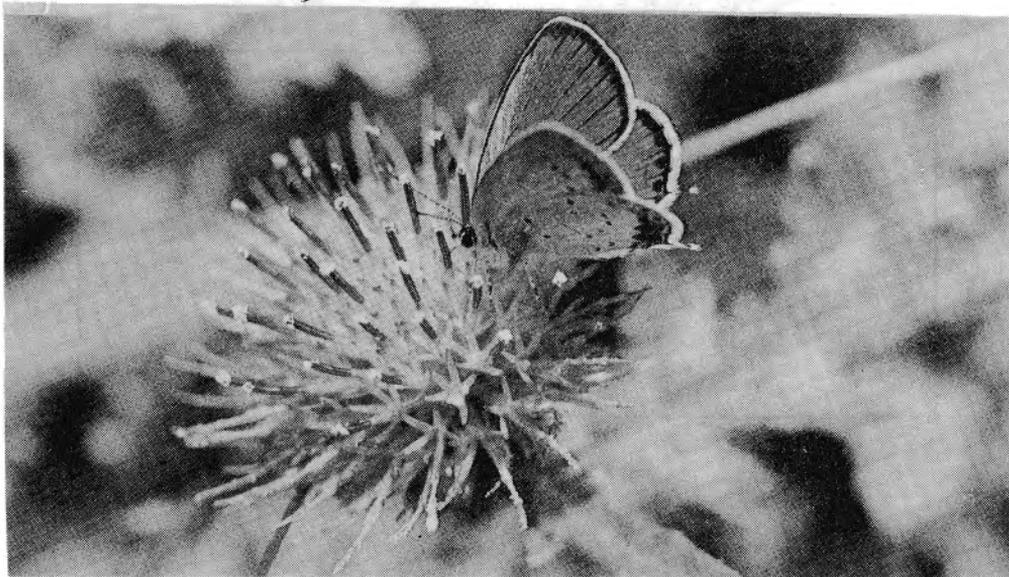
日本 G A P 紀 南 会

— 卷頭言 —
『UFOとテレパシー』

今年の静岡支部大会ですごく
ことが起こったそうである。大
会翌日の朝霧高原である。素晴
しい富士山を目の前において、

上空に『月』に似
たUFOが滞空
していたとは。
何時間かGAP
会員に向かって
想念を送って
れていたことだ
ということだ
が、誰も気付く人はいなかった
ときいています。又UFOもフォ
ースワールドで巧みに正体を
巧みに正体を隠していたとは、

この話は私は初めてである。こ
の事は後になって松山市の伊藤
氏らのグループが気付かれたそ
うである。後になって判明され
るということも何か意味あるも
のを感じられずにはいません。
スペーススピールの方々も、私
達を励ましてくれていたのだろ
う。いよいよ日本GAPも宇宙
的に発達しこれからもすごい大
事件が発生することが考えられ
ます。これからも益々テレパシ
クになり、宇宙哲学の実践と共
に、UFOと共に進歩したいも
のである。



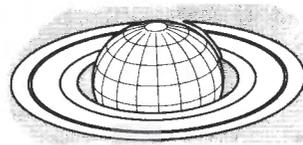
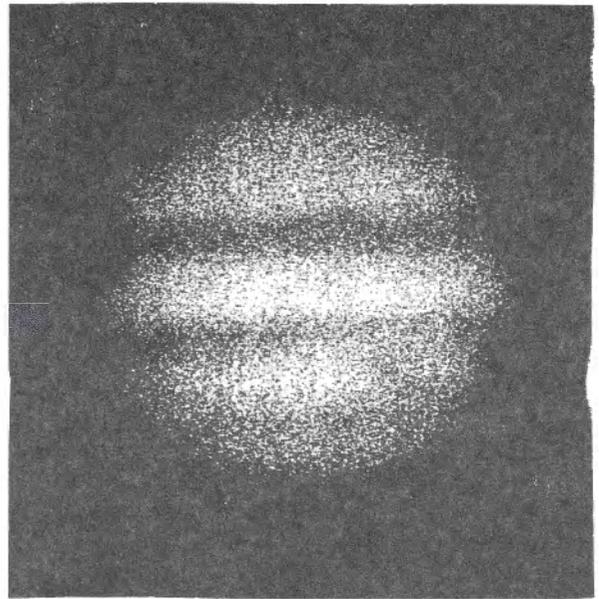
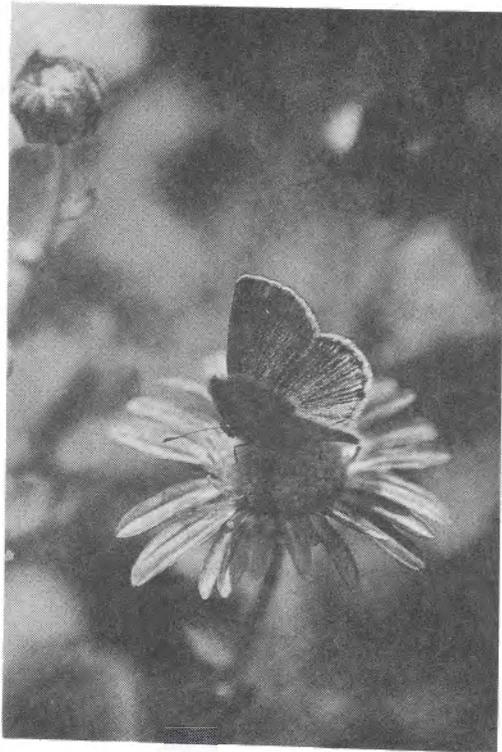
肉体と精神の研究

小川 隆志

今回も松口さんとお話をしていて、ふと気づいたことなのですが、私達の体の中に、ある種のエネルギーの流れがあるのではないかと思いました。私達の体を構成している細胞、その細胞の材料である(材料という表現は少しおかしいですが)分子、原子のアダムスキーの著書にもあるように、分子レベルでのリラックスが私達の、肉体のエネルギーの流れを良くし、自由な状態が生まれ、想念の感受が正常に行なわれ、心の調和がそれを生み出すのであり、細胞の変化が、心の変化をもたらし、自

然な自由な流れが、肉体のもつ能力(目的)を充分にはたすことができるのではないかと、私達の体は宇宙の力により生き、宇宙の法則を応用する一種の機械(道具)のような気がします。もっと肉体、心の研究が必要のようです。みんなに、もっとわかりやすく、理論的にそして、実践的方法、方法は個人個人によってちがいが、性格もちがうのでその人に合ったやり方があると思います。だから、基本的なことをもっと確実なものとして、その上での各人のやり方で、宇宙哲学を学んで、実践することが、

今現にみなさんが行っていることだと思いますが、重要なよう
です。へんなふうになってしま
いました。私が書きたかった
のは、肉体、精神作用に関する、
科学的な(宇宙的)研究がもつと
行なわれるべきであり、できる
ならば、GAPが、その研究を
進めることができないか、専門
機関を作れないか、その必要性
もあるように思います。豊富な
人材がGAPにはあります。い
かがなものでしょうか。みなさ
ん考えてみて下さい。



私は祝福想念の放射体 その1

松口 幸之助

今年の静岡支部大会における
久保田先生のご講演テープをき
いて深く感動させられるものが
あり、述べさせて頂きます。私
はある事情で支部大会に参加す
ることができなかったのですが、
今年も素晴らしいものになるだろ
うと思っていました。

祝福の想念を発する

久保田先生の講演の内容は、

『自分は万物一体であり、想念
を発し、他人のマインドも変化

させることができる。そうなる
ようにフィードバックを高めなけ
ればならない。スペーススピー
ルの方々とのコンタクトもでき
ないだろう。波動を高めなけれ
ばならない。そしてどんな人
も祝福の想念を送らなければな
らない。』これはこの地球上で
は非常に大切な事だと思えます。

医者になりたかった

私自信についてですが、たい
した宇宙哲学の実践をしており

ませんが、ミラクルワード、イ
メージ法は毎日やっています。
以前から実現したことがあります
した。私は特に中学生の頃から
医者になりたいと思うようにな
りました。それで有名な国内や
アフリカで活躍した医者 of 伝記
共も読みました。しかし私は学
校の成績もよくなく、それに情
緒が不安定でしたので、進学は
しませんでした。少し年が過ぎ
て、自分は体が悪い人を治して
あげたいと始終思うようになり、
これは絶対やらなくてはならな

い、これに私の心を打ち込んでやりたい。けれども私は学校で医学の勉強は全然やっておりませんが、しかしこれはできないことではないだろうと思っていました。それから宇宙哲学を知りました。アダムスキーの私生活にも関心を持ち深く感動しています。

オーラのことでも目覚める

UFO関係の本や雑誌に、オーラのこと書かれていました。GAPの機関紙にも書かれていました。何度も読みました。

私は他人の病気を治してあげたいと思っていました。GAPに入ってから、病気を治すのは『自分自身に宿る宇宙の意識なのだ』と思ひ直しました。悟りさえすればどんな病気も治るのだということだと思います。それにはどうすれば良いかということですが、これは想念の影響も多いと思います。ですのでミラクルワード、イメージ法ですがただやるだけでなく、久保田先生も力説されていますように、自分が意識の内へ宇宙空間に溶けこむフィリリングが必要かと思ひます。ですから私は病気を治す『さそい水』の

役をやりたいと思ひます。(つづく)



あるテレパシクな体験

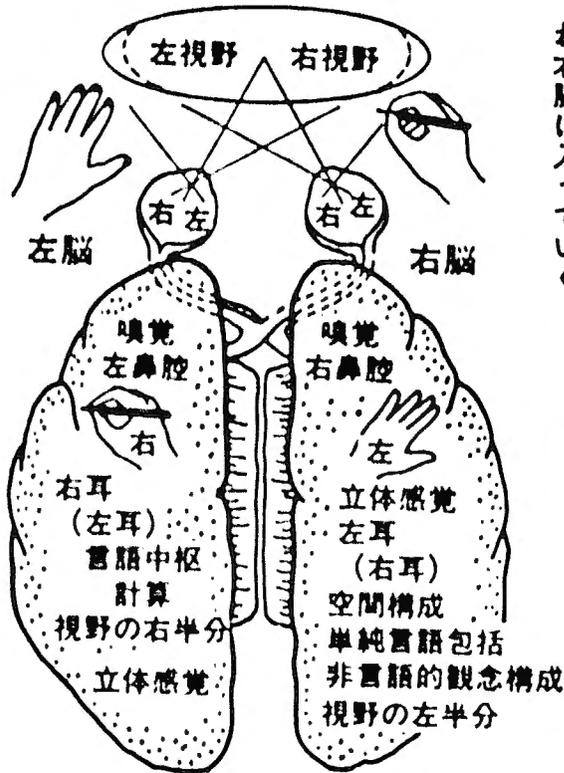
石田 義雄

私の勤め先の会社でちょっとおもしろい体験をしましたので書いてみます。先日懇親会が会社でありまして、そのとき『大阪に事業所をつくるといううわさがあるがほんとうか?』という質問がでまして、答えは『お客さんからつくってほしいという話がでているが、検討中である。』というような返事でした。この質問がでたとき、ものすごく胸騒ぎがしまして、自分がいくことになるのではないだろうかという不安感がおきまして、これを打ち消すような想念をおこしました。自分自身で恐怖の想念をおこしたと思つたのです。しかし懇親会がすみ、帰宅する

途中でまたもその不安感がおきてきたのです。そこで楽しさをおこす反復思念をしたりしながら家に帰りました。いろいろと考えているうちに今度は上司の顔のイメージが浮かんできました。あまりよい表情ではありませんでした。大阪にいかずすむというような反復思念をしておりましたところ、東京都内でもよいという感じが浮かんできましたのでそれでも良いと思つていましたところ、上司の顔のイメージが次第ににこにこしたものとなくなってきました。そこで安心して反復思念をやめました。翌日会社に出勤しましたところ、『新宿のほうで仕事をして

ほしい。』といわれました。いまままで厚木市にある事業所で仕事をしていたが、新宿のほうに出向となったわけです。大阪の事業所はできる様子はまだありませんが、一年間は新宿に通うことになりそうなので当分は大阪には行かずにすみそうです。これはテレパシクな現象の例だったのでろうとおもいます。通勤時間が片道七分から一時間三十分となりましたが、仕事場の雰囲気はすこしは良くなり、また禁煙となりました。たばこを吸わない私にとってはよろこびでもありました。

図① 右脳と左脳の役割分担



※左の視野は、左右の眼球の右側に投影され右脳に入っていく

○右半身の触覚・コントロール
○視野の右半分
○右耳の聴覚
○左鼻腔の嗅覚
○言語的能力
○計算的处理能力
○観念的思考
○論理的思考
○時間連鎖的思考
○連続的な細かい手作業
○分析的思考

○左半身の触覚・コントロール
○視野の左半分
○左耳の聴覚
○右鼻腔の嗅覚
○音楽的感觉
○図形的感觉
○空間の知覚
○全体把握能力
○合成的思考
○「探す」能力
○隠された意味を読みとる能力

(完全な分担ではなく、優位を示す能力も含む)

人体コーナー

ノンブック 『潜在脳の発見』から (祥伝社刊)

紀南会月例研究会

和やかに自由にアダムスキー哲学の探究と実践をめぐりながら限りなき宇宙的人間の成長をめぐりやっております。真面目な探究者のご参加をお待ちしています。

●日時 毎月第四日曜日

午後一時～五時

●会場 新宮市福祉センター

相談室

Tel (0735) 212760番

- プログラム：東京本部久保田会長の講演
テープ公開。テレパシー練習。座談会等。
- テキスト：「宇宙からの訪問者」「テレパシー開発法」(文久書林)

編集後記

★会報5号をお届けします。素晴らしい夏を悠々と生きましょ。

★今号には神奈川県石田氏から体験記を頂きありがとうございます。

★皆様からの感想、体験記をお待ちしています。

(R.M.)

1985.7.25 発行

日本GAP紀南会報 第5号

編集発行人 松口幸之助

発行所 日本GAP紀南会

〒519-58 三重県南牟婁郡紀宝町平尾井九九三